

平成 23 年度事業報告

平成 22 年 4 月 1 日にこれまでの任意団体日本化学連合の会員、事業、財産を継承して、一般社団法人日本化学連合に移行した。

平成 23 年度は引き続き世界化学年記念事業については諸団体と連携して積極的に推進することを重点に活動すると共に、「世界化学年日本委員会」事務局の業務を行った。

1. 会員の増減と会費収入並びに補助金収入

正会員については増加がなく現時点で会員数 17 であり、会費収入は 528 万円であった。賛助会員については団体 4、個人 12 であり増員は個人 1 名で、合計 55 万円の会費収入があった。

また、世界化学年事業については化学連合主催の事業を立案し、諸団体に趣旨の説明と協力をお願いし、23 年度は化学工業日報社より「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」と「世界化学年記念化学コミュニケーション賞」の活動に対し 200 万円の支援を頂いた。

2. 日本化学連合平成 23 年度活動報告

2.1 日本化学連合が主催した世界化学年記念事業

平成 22 年 12 月の①「世界化学年カウントダウン記念シンポジウム」に続いて、平成 23 年度は以下の 2 件の日本化学連合主催の企画を実施した。

② 「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」

③ 「化学コミュニケーション賞」

「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」の募集に関しては小学生の部と中学生の部併せて、477 件の応募があり、3 次に渡る厳正な審査の結果「最優秀賞」「優秀賞」「審査員特別賞」「入選作」計 40 件が選定された。各賞の授賞式は 8 月 3 日に駐日ポーランド共和国大使館にて行われ、理化学研究所・理事長 野依良治先生ならびに駐日ポーランド共和国大使 ヤドヴィガ・ロドヴィッチ・チェホフスカ氏より受賞者に祝辞を頂き、盛況で有意義な式典であった。

「化学コミュニケーション賞」の授賞式は 10 月 28 日に科学情報センターで開催の化学工業日報社主催「世界化学年記念」シンポジウム・講演会のプログラムの一環として実施した。

24年3月末日までに上記二つの事業「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」、「化学コミュニケーション賞」と「世界化学年カウントダウン記念シンポジウム」を含めて実施報告書を編集し発行した。実施報告書は化学連合の会員や役員、委員などの関係者、またこれらの事業の企画。実施にあたりご支援をいただいた方々にお渡しすると同時に日本化学連合ホームページにアップロードした。

2.2 世界化学年日本委員会事務局としての調整業務の実施

化学連合は日本委員会事務局業務を3年にわたり実施してきた。主な業務は

- ① 日本委員会、企画委員会、実行委員会の開催
- ② 事務局連絡会（26団体）の開催：世界化学年事業の情報交換と調整
- ③ 世界化学年事業のIUPACへの登録申請代行（登録件数は144件で世界3位）
- ④ 世界化学年フォーラム（日本委員会主催）開催および共催分担金依頼
- ⑤ 世界化学年日本委員会ホームページの維持管理
- ⑥ 世界化学年の報告書（世界化学年日本委員会発行）発行

世界化学年日本委員会は予算を持たずにスタートしたが、関係各位の協力によりその役割を果たすことができ、世界化学年を終えるところまで到達した。

事務局では「世界化学年2011」報告書を編集し、世界化学年日本委員会の承認を得て報告書を3月末日に発行した。事務局業務も3月末日をもって終了し、日本委員会は解散した。なお、報告書は世界化学年日本委員会のホームページからも閲覧できる。

2.3 第5回シンポジウムの実施

日本化学連合が法人化をしてから第2回目のシンポジウムとして、「共に生きよう世代を超えて - 今後の日本の科学技術・教育を考える」を企画し（企画委員長：西原寛理事）、平成24年3月7日に開催した。（資料3）講師は相澤益男（総合科学技術会議 議員）、中西宏典（経済産業省大臣官房審議官）、小林喜光（三菱ホールディングス 社長）早川信夫（NHK 解説主幹）、御園生誠（日本化学連合 会長）の5氏で、会場の化学会館7Fが満席となり、盛況の内、終了した。また、シンポジウム終了後、講師、出席者、並びに日本化学連合の会員、役員達との交流会も開催し、活発な意見交換を行った。

3. 会計

平成23年度は会費収入以外に賛助会費、補助金（化学工業日報社より）をもって活動する予算を立て、従来からの事業に加えて、世界化学年記念事業として「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」「化学コミュニケーション賞」の企画・実施に注力した。平成23年度の繰越金は1,827,657円となった。

4. 学協会の活動の連携業務開拓の継続

他学協会と連携したシンポジウムを平成 19 年度より継続している。平成 23 年度は以下の 2 件が企画され実施された。

- ① 2011 年 6 月 30 日に石油学会東北支部主催の緊急開催、明日のエネルギー研究会「いま、エネルギーを勉強する」～在来型エネルギー、非在来型エネルギー、新エネルギーを勉強する～において、瀬川幸一常務理事が講演『低炭素社会における、化石資源の役割』を行った。
- ② 2011 年 11 月 24 日に触媒学会と東日本震災復興支援特別触媒フォーラム「創・省エネルギー技術の触媒」を共催した。御園生誠会長が基調講演「21 世紀のエネルギー戦略：時間軸、量、経済性」を行った。

5. 情報発信

化学連合ニュースは月 2 回発行を継続している。正会員、賛助会員、役員、委員に送付しており、平成 23 年 3 月末で 78 号を発行した。

6. 庶務の概要

6.1 理事会 3 回、社員総会 1 回

6.2 理事 25 名、監事 2 名

6.3. 委員会など

運営委員会 1 回（財務強化、組織強化）

企画委員会 2 回（シンポジウム企画・実施）

役員候補選考委員会 2 回

幹事会 7 回

以 上